

向学館通信

2008・6・26

中学生の定期テストが終わりました。

1ヶ月足らずで夏休みが始まります。7月に入りましたら、面談をして夏の計画などを相談したいと思います。特に中3・高3生は進路決定についても相談いたします。

とてもうれしかったこと（非を認めて謝罪に来てくれたAさんのこと）

中学生の定期テストが終わった次の日、Aさんは受講日なのに、「用事がある」といって塾に来ませんでした。Aさんが塾を休んだことを親御さんは知らないかもしれないと思い、お母さんに電話をしました。案の定、お母さんも知らなかったようで、腹を立てておられました。何年も前には、このように定期テストが終わると、塾をさぼって羽をのぼす子が何人かいたことがありました。そういう子とは、ずいぶん闘いました。そうした努力もあってか、最近はこうしたケースがほとんどなくなりました。

Aさんは、その夜、かなり遅い時間になって、塾へ来ました。「先生、お話があります」といって来ましたので、別室で話しました。Aさんは大変かしこまって「先生、今日は、授業なのに来なかったことについて、お詫びに来ました。スポーツのこともありました、テストも終わったし今日ぐらいはいいだろうと、休みました。大変申し訳ありませんでした。」と、謝ってくれました。もし、許していただけるなら、今後は二度とこういうことがないようにします。高校入試まで一生懸命にがんばりますから、この塾で勉強を続けさせてください、という趣旨のことを話してくれました。言葉を選び選び、はっきりとした口調で話してくれました。

最近、自分が過ちを犯しても、とぼけたり、しらを切ったりする子が多い中で、Aさんは、一人でやってきて、私にキッチリと謝罪し、今後は頑張るので許してほしいといいました。子供が何かをやらかしても、親御さんが代わりに謝り、その横でせいぜい頭をぺこんと下げるだけの子供というのが、一般的な昨今です。これらに比べて、Aさんは立派だと思いました。自分の誤りの非を認めて、わびるべき相手に堂々としかも真剣に言葉を尽くしていました。

この子は、この先、困難が降りかかってもそれに対して、逃げずに立ち向かい、自分で道を切り開くだろうと思いました。こうしたことは、「人間力」の大きな要素です。この子の強さをたのしく思いました。・・・うれしいことだったので、報告しておきます。

詩や俳句、短歌の「こころ」が読み取れない！

先日、中学生のテスト対策で、ある生徒の国語の学習の指導をしました。俳句の意味が全然分からないというので、ひととおり解説しました。しかし、やっぱり分からないといひます。言葉や状況が分からないのだろうと考え、もう一度丁寧に説明しました。でも、なかなか納得してくれないのです。そこで、生徒にその俳句の解説をしてもらいました。すると、説明は筋を通して間違いなくできるのです。えっ、分かっているじゃないのと、思わず言いました。でも、うまく言えないけど、納得できないんです、と生徒が言いました。ここまできて、考え込んでしまいました。

この生徒は分からないことは分からないとはっきり言うし、自分の気持ちに正直な人なので、いい加減なことを言うはずはないのです。だから、私の説明がまだ不十分なのだろうか、考えたわけです。しかし、話しているうちに、ようやく気が付きました。

たとえば「静けさや 岩にしみいる せみの声」という芭蕉の句の解説を聞けば、そういうものかと思う、しかし、それがどうしたの？ 静かなところで蝉が鳴いているというだけでしょ、それが大事なことなの？ あまり意味のないことのように思うんだけど・・・と、こういう会話になりました。この生徒は、「感じる」ということが出来なくなっているのでしょうか。感性、情緒、感銘などを書き留めるのが詩や俳句ですが、このような情操が育っていないのです。

がさつでぎすぎすした時代で、大人が生活や仕事にゆとりが持てなくなり、季節の変化や美しい情景などに思いをはせることがなくなったことの反映だと思ひます。つらいことです。

漢字検定は8月22日（金）です。申し込み締切は7月17日（木）です。